

うめきた2期区域 まちづくりの方針(案)

注: 地域部会で示した方針の骨子(案)から記載の
充実・強化を図った箇所を下線で示している。

平成26年 月

大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域
都市再生緊急整備協議会会議
大阪駅周辺地域部会

<目 次>

1. 2期区域のまちづくりの目標	1
2. <u>比類なき魅力を備えた「みどり」のあり方</u>	3
3. <u>「みどり」と融合し価値を創造・発信する「イノベーション」～導入する都市機能～</u>	7
4. <u>「みどり」を体感できる空間づくり</u>	9
5. <u>歩く楽しみ・喜びを創造するまちづくり～交通ネットワーク～</u>	11
6. <u>速やかに災害から復元するまちづくり</u>	13
7. <u>環境共生の新たな展開をめざしたまちづくり</u>	14
8. <u>持続的发展をめざしたエリアマネジメント</u>	15
9. <u>周辺とともに地域全体の価値を向上させるまちづくり</u>	16

はじめに

この「まちづくりの方針」は、「うめきた2期区域」の約 16ha を対象として、まちづくりのめざすべき方向性などを示すものであり、当区域の都市計画や平成 27 年度以降に開発事業者を決定するために実施が予定されている「(仮称)うめきた2期区域開発事業者募集」におけるまちづくりの基本的な考え方をまとめたものである。

「みどり」を軸とした質の高いまちづくりを実現するため、民間からの独創的なアイデアやノウハウを求める「うめきた2期区域開発に関する民間提案募集」を平成 25 年度に実施し、選定された優秀提案の内容をもとに、提案者との「対話」も行いながら、「うめきた2期区域まちづくり検討会」において、まちづくりの方針についての検討を進めてきた。

本方針のもと、各主体が今までにない斬新で豊かな発想、創意工夫を最大限発揮して、本方針を具現化し、具体的な方策を展開の上、公民連携のもとでうめきた2期区域のまちづくりを実現するものである。

1. 2期区域のまちづくりの目標

都市を取り巻く社会・経済状況の変化は加速しており、世界の各都市がその魅力を競い人材や投資等を呼び込むことで、目覚ましい発展を遂げている。我が国においても、国際競争力を高め、世界の都市をリードするまちづくりの実現が重要なテーマである。

うめきた地区は、「グランドデザイン・大阪」(大阪府・大阪市、平成24年6月策定)や「国家戦略特区提案」(大阪府・大阪市、平成25年9月提出)で位置づけられた、関西の発展を牽引するリーディングプロジェクトである。西日本最大の交通ターミナルであるJR大阪駅と、業務・商業の都市機能の一大集積地である梅田地区に隣接し、関西で最も高い立地ポテンシャルを有している。さらに、関西国際空港と直結するJR東海道線支線の地下化・新駅設置等の基盤整備や、なにわ筋線の事業化に向けた検討も行われており、関西の中核拠点として、また、「アジアのゲートウェイ」としての機能が飛躍的に強化されることとなる。

これからのまちづくりにおいては、都市における自然との共生、地球環境問題の解決や大規模災害への対応など、今日的な課題への解決策を提示することはもとより、合理性、経済性を重視してきたこれまでの都市づくりのパラダイムを超えた新しい未来のまちのあり方の提案が求められている。うめきた2期区域のまちづくりでは、世界中の叢智を結集し、この命題に対するひとつの答えを提示したい。それが「みどり」である。

この「みどり」は、単にまちの中に公園や緑地を確保することにとどまらず、未来に向けた都市や人間と自然、環境との新しい関係性を構築し、比類無き魅力を備え、都市の文化となる新しいまちづくりの空間の概念である。

うめきた2期区域の「みどり」は、大阪の都市の格、まちの魅力を高め、大阪を世界水準の都市空間を持つ国際都市に引き上げるトリガーとなり、周辺地区のみならず広域的な都市構造に波及する力を持つ。また、大阪の新しい都市文化として発信し、これからのまちづくりを先導するような「みどり」をめざす。

一方、関西には伝統産業や先端技術まで幅広いものづくり産業・技術の蓄積があり、近年ではけいはんなや彩都など国際競争力を持つ環境・エネルギー、医療・バイオ分野の産業クラスターが形成され、優れた大学や研究機関等が集積し、様々な連携が進んでいる。さらに、大阪に加え、京都、奈良、神戸など歴史・文化の蓄積の厚い世界に誇る観光都市とも近接し、豊かな日本文化を一度に体感できる強みも有する。うめきた地区は関西圏の中心に位置し、広域的な交通ネットワークにより、これらの拠点や都市と結ばれる。さらに、先行開発区域において、最先端の技術や情報の集積と多様な人々の交流を通じて新たな商品やサービスを生み出す「ナレッジ・キャピタル」が既に形成されている。

この優れた立地ポテンシャルを活かして、関西のイノベーション創出の総力を束ね、連携の結節点となるような拠点をめざす。

世界に比類無き魅力を備える「みどり」が、世界中から資本、優秀な人材等を集積させ、都市や環境と人間の新しい関係性の中から創造的・革新的な変化(イノベーション)を生み出し、関西ひいては我が国に新たな国際競争力をもたらす。

以上から、うめきた2期区域でめざすべきまちづくりの目標を設定する。

2期区域のまちづくりの目標

「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」

- まち全体を包み込む「みどり」がここにしかない新しい都市景観を創出し、多様な活動、新しい価値を生み出す源となり、世界の人々を惹きつける。

新たな国際競争力を獲得し、 世界をリードする「イノベーション」の拠点

- 世界からの人材、技術を集積・交流させ、新しい産業・技術・知財を創造することで新たな国際競争力を獲得し、我が国の成長エンジンとして世界をリードする「イノベーション」の拠点となる。
- 「みどり」が人間の創造性を刺激する環境を創出し、世界からその環境を求める人材や技術、資本を集積させる。
- 「みどり」が創り出す魅力ある空間と、関西の力を結集させた中核機能とが融合し、世界中から訪れる人々に新たな知の交流を提供する。

2. 比類なき魅力を備えた「みどり」のあり方

(1)「みどり」の役割

①まちの基盤となり、次代に受け継ぐ資産となる「みどり」

「みどり」が都市の骨格として、災害に強いまちや環境に優しいまちをつくる基盤を構成し、持続性を持ち次代へと受け継ぐまちの資産となる。

②使いこなしによって多様な価値を生み出す「みどり」

人々が「みどり」の中で活動し多様に「みどり」を使いこなすことにより、新しい価値を生み出し、都市の文化や先導的な技術産業の創出につなげる。

人々が活動するその姿が活き活きとしたまちの風景をつくり、それに魅せられた多くの人々を惹きつけ、新たな創造的な活動の創出につながる好循環を生む。

また、これら多様な活動に場を提供し、それにより得られた収益を質の高い「みどり」の管理等に活用する。

③成長しながら、周辺地域へ進出、波及効果を生み出す「みどり」

「みどり」が長い時間をかけ成熟・発展しながら、周辺地域にも進出し、淀川や中之島ともつながる緑のネットワークを形成する。また、波及効果を生み出し、周辺のまちも含めた一体的な成長・発展を牽引する。

(2)「みどり」の空間形成

①斬新で質の高い景観を創る「みどり」

公園、道路、交通広場等の公共空間と民間敷地、まち全体が「みどり」に包まれ、ここでしか体験できない新しい都市景観を形成する。

「みどり」が建築物等と融合し、平面的な広がりに加え立体感や奥行きを生み出すとともに、印象的かつ多様な見え方・楽しみ方を提供する空間を創る。

②メッセージ性のある「みどり」

緑や水の空間形成を通じた新しい価値観を提示し、また、変化に富んだ四季の風景といった日本特有の感性・文化や、都市における自然生態系の再生など、世界に発信するメッセージ性を持つ「みどり」を導入する。

③「みどり」の成長など時間軸を組み込んだデザイン

植物の生長や経年変化といった時間軸を考慮し、「みどり」の成熟とともにまちの景観や表情の変化を生み出す。

多様な活動に場を提供することにより得られた収益を活用して、さらなる魅力を持った「みどり」へと常に発展できるよう、柔軟性・可変性を持ったデザインとする。

(3)「みどり」の配置・規模

「みどり」は、「すべての人々に開かれ、誰もが自由にアクセスでき、そこで人間の活動が豊かに展開される緑豊かなオープンスペース」であり、下記の2つで構成するものである。

①地上のまとまった「みどり」

接地性のあるまとまった「みどり」であり、恒久性、永続性を持つ

②建築物と一体化し地上と連続する「みどり」

地上のまとまった「みどり」と連続し、円滑にアクセスすることができる、建築物と一体化した「みどり」であり、「みどり」の新たな可能性を提示する

この「みどり」の配置・規模について、以下のように展開する。

- 「みどり」をうめきた2期区域全体に展開し、概ね 8ha(水面等も含む)を確保する。
- ①地上のまとまった「みどり」については、2期区域のシンボルとして、重要な視点場である JR 大阪駅からの眺望の確保や視覚的な一体感、そして隣接する周辺の緑との連続性、さらには大規模災害時への対応における優位性等から、地区中央部に確保するものとし、その規模は概ね 4ha とする。
- ②建築物と一体化し地上と連続する「みどり」については、民間の創意工夫により、地上部や低層建築物の上部において確保する。
- ①と②の「みどり」が一体となり、まち全体を包み込む。



図ー1 「みどり」の配置・規模

3. 「みどり」と融合し価値を創造・発信する「イノベーション」

～導入する都市機能～

(1) 中核機能

関西の力を結集し、先行開発区域の「ナレッジ・キャピタル」を強化・発展させ、「みどり」と一体となって常に世界をリードするイノベーションを生み出し、周辺地域への波及、相乗効果を発揮するうめきた2期区域の中核機能として、下記のものを設定する。

① 新産業創出（例：健康・医療、環境・エネルギー等）

グローバルな課題への対応が求められ、今後も著しい成長が期待される産業分野において、関西の持つ産業集積の強み・ポテンシャルを最大限発揮し、最先端の技術・情報等を集積・発信するとともに、異分野のコラボレーション・知的交流・共同事業を展開することで新産業を創出する。

② 国際集客・交流（例：MICE¹⁾・文化創造・発信等）

当地区の立地ポテンシャルに加え、大阪、さらには京都、神戸、奈良など関西の持つ豊かな都市文化の蓄積も活かしながら、世界的に需要が伸長している国際的な企業・産業活動、研究・学会活動を積極的に誘致するなどにより、国外からの来訪者を受け入れ、多様な人々が交流し、創造的な活動を展開し、発信する。

③ 知的人材育成（例：連携大学・大学院、国際化教育等）

創造性豊かな知的人材は、イノベーション創出の源泉となるものであり、その育成が重要であることから、企業や研究・教育機関などの技術、ノウハウを活用し、産学官連携による研究、技術開発や事業化支援、あるいは国際色豊かな環境づくりなどにより、世界で活躍するグローバル人材を育成、輩出する。

大学等の研究機関等は、人材育成に寄与するだけでなく、ナレッジ・キャピタルの機能を強化・発展し、その成果をグローバルに展開させ、関西の発展を牽引するビジネスの創出に繋げるために重要な役割を果たす。

¹⁾ MICE：企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

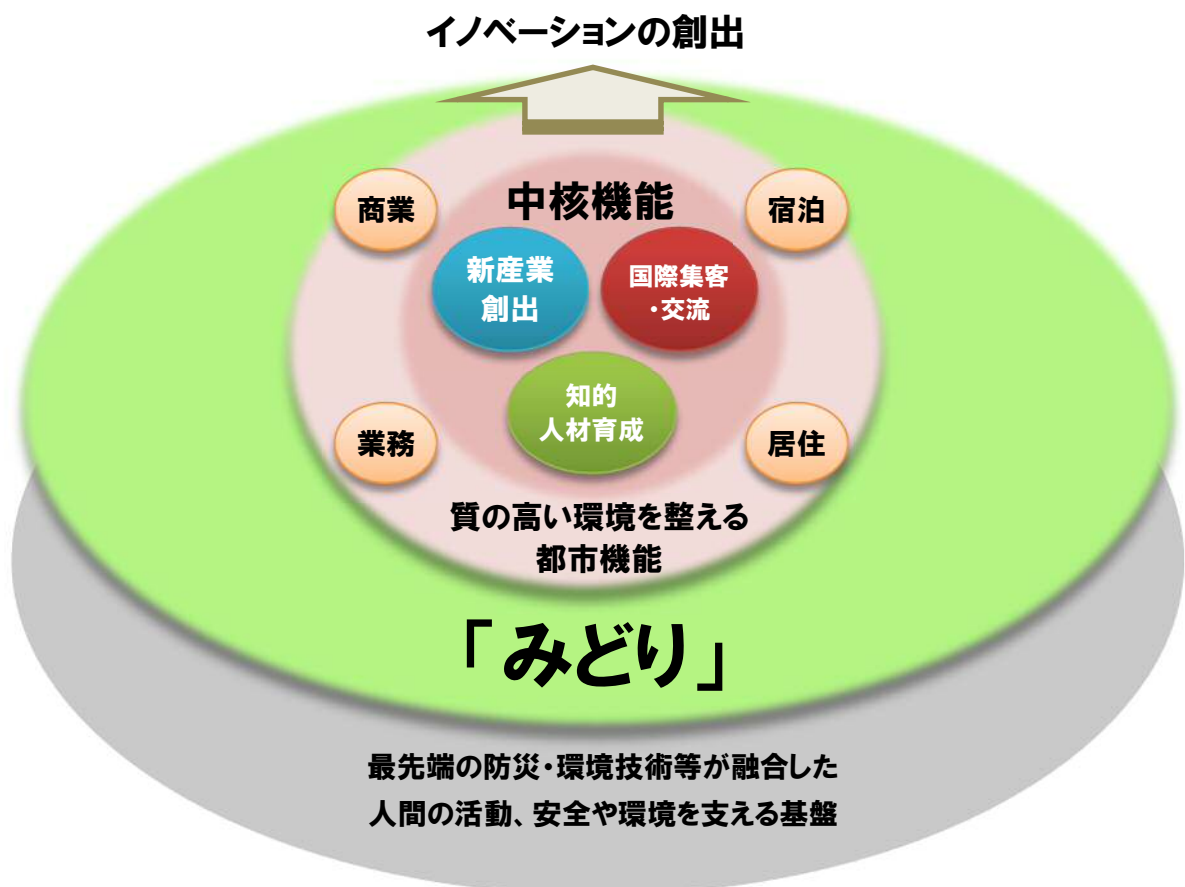
JR 東海道線支線地下化及び新駅設置、さらにはなにわ筋線の整備により、海外との連携や交通の利便性がさらに向上し、うめきた地区の拠点性はこれまで以上に高まる。これを活かした中核機能を導入することにより、大阪駅周辺地域や中之島といった周辺地域のみならず、関西の各都市との連携、発展、交流をも促す。

これらの中核機能を導入したうめきた2期区域の開発を契機に関西の国際社会での存在感を新たなステージへ強力に引き上げることをめざす。

(2) 質の高い環境を整える都市機能

比類なき魅力を備えた「みどり」のなかで、中核機能と連携、あるいは中核機能を補完しながら、国境を越えて様々な活動を誘発し、賑わい等を生み出す複合的な機能の集積を図り、世界水準のビジネス環境や質の高い居住環境などを創出する。

「みどり」と「イノベーション」の融合拠点



図－2 導入する都市機能の概念図